

# 半自然草原のお花畠の仕組み

アイデア求む  
ポイント OECM  
草を刈ると利益になる  
仕組みが必要

箱根ビジターセンター(自然公園財団)学芸員 伊豆川哲也 izkw\_tetsuya@yahoo.co.jp 2025年10月

**植生の遷移(乾性遷移)**とは、裸地が草原に、草原が森になってゆく経年的な変化(図の上部)。かつての里山では屋根材、飼料、肥料等にするため、毎年、草刈りをした。すると結果的に遷移が止まる。この草刈りを長年続けると秋の七草や盆花(オミナエシやワレモコウ等)の長命な多年草がススキと共生してくる。これが**半自然草原(歴史の古い草原、二次草原)**。

半自然草原は、日本の国土の3~2割もあったが近100年で**99.5%消滅し危機的**。

箱根では、仙石原の箱根湿生花園の南側の湿原や台が岳ススキ草原、仙石原の箱根カントリー倶楽部、稜線登山道脇の幅広に草刈りされた部分、芦ノ湖北側の湖尻園地の広場脇等に小規模ながら維持されている。

